



国立大学法人
豊橋技術科学大学

IT食農だより

発行元：豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

住所：〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

TEL: 0532-44-6655 FAX: 0532-81-5108 E-mail: manager@recab.tut.ac.jp

2021年2月15日

No. 78

2021年1月29日(金)に「東海地域の6次産業化推進人材育成」第9期生の修了式が行われました。今年度は、新型コロナウイルス感染症リスクへの対応からオンラインのみの修了式となり、加藤学長特別補佐から修了生15名に修了証

東海地域の6次産業化推進人材育成第9期生の修了式が行われました！



2020年度 東海地域の6次産業化推進人材育成 第9期生修了式集合写真

書と「6次産業先導士」の称号が授与されました。この講座は、文部科学省の「職業実践力育成プログラム(SBP)」認定及び本学の履修証明プログラムに認定されており、

学長特別補佐の式辞後、優秀な成績を修めた大岡祐馬氏に「優秀成績賞」が授与され、修了生を代表して答辞を述べられました。

(文責：水鳥絵理)

加藤学長特別補佐式辞

本日、修了されました皆様、おめでとうございます。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、この人材育成プログラムの開催自体も危ぶまれた時期もありましたが、全てをオンラインで開催することができました。

このプログラムは週末に講義が行われるため、社会人である皆様には非常にハードなスケジュールだったのではないかと思います。例年ですと、大学での講義もあり、受講生の中の情報交換や雑談などが、息抜きや講座継続のモチベーションに繋がっていたと思います。ですが、今年度は、そういった今まで当たり前だった人と人との距離や繋がりが変化し、どちらかというと各個人で講座の内容に向き合い、より深く考える機会になったのではないかと思います。この経験が、今後の皆様の活動にプラスに働くことを願っております。

さて、皆様は、この東海地域の6次産業化推進人材育成プログラムの9期生となります。このプログラムは、昨年度より文部科学省の職業実践力育成プログラムに認定され、「6次産業先導士」の称号を授与する本学の履修証明プログラムであるとともに、「食の6次産業化プロデューサー」(通称・食プロ)の段位申請も可能なプログラムであります。皆様はその2期生となります。

この大変有意義なプログラムを運営するにあたりましては、豊橋市様、田原市様、豊川市様、蒲郡市様、新城市様、株式会社サイエンスクリエイト様にご協力いただいております。豊橋市様、田原市様からは運営のためのご支援もいただいております。また、本事業を推進するにあたり、イノチオホールディングス様、サテラコーポレーション様、大仙様、トヨタ様、豊橋信用金庫様、本多電子様など多くも企業様からもご支援を頂いております。この場をお借りして、感謝申し上げます。

今回、12月に開催されましたビジネスプラン発表会を聴講させていただきました。様々な視点で新たなビジネスが考えられており、とても楽しく聴講させていただきました。審査員の先生方からの厳しい質問にも一生懸命応えておられ、皆様の自分のプランに対する熱意が伝わってきました。

近年、農業を取り巻く環境は年々厳しいものになってきている様に感じます。加えて、今回のコロナ禍で、農業に限らず社会全体が厳しい状況へと落ち込み、今は上昇への兆しが見えにくい時でもあると思っております。こんな時だからこそ、

「6次産業先導士」として、皆様のアイデアや、このプログラムで学んだ知識を活かして、社会をリードするようなビジネスに挑戦していただければと思います。

こういった人材育成事業は、そのプログラムを修了すれば終わりというものではなく、その後、皆様がどのように活躍されるかが重要です。

幸い、このプログラムは先端農業・バイオリサーチセンターが実施している他の人材育成プログラムとも連携して、修了生が主体となつてIT農業ネットワークを形成しておられます。現在、その会員数は500名を超えるほどになっております。この地域で活躍されておられる修了生や、新聞やテレビで度々、紹介されている修了生の方もおられます。こういった皆様の活躍が、このプログラムの成果や評価であり、我々の今後の事業継続への励みにもなっております。皆様も、是非このネットワークに参加していただき、多くの仲間を得ることで、益々、研鑽を積み重ね、ご活躍いただけることを心より願っております。

最後に、改めてお祝いの言葉を述べさせていただきます、私からの式辞とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。

修了生答辞

今年度は新型コロナウイルスが蔓延し、一人一人が大変不安な日々を過ごす日々を強いられました。日本経済だけでなく、世界全体の経済に

とつても、未曾有の危機を迎えております。我々、一人一人が関わる「農業」という業界も例外ではなく、どの科目においても苦戦を強いられており、市場価格が低迷している状態です。ビジネスモデルの急転換を迫られており、一人一人が変化し、リーダーシップが迫られる時代であるといつても過言ではないと考えております。

そのような中、本日は、多くの皆様のご臨席のもと、私たち「東海地域の6次産業化推進人材育成事業第9期生」のために、このように盛大な修了式を開催していただいたこと、心より御礼申し上げます。また、加藤茂学長特別補佐様より、素晴らしい式辞を賜りましたことに、修了生を代表して重ねてお礼申し上げます。

ふりかえれば、昨年の8月、私たちはそれぞれの思いを持って、ここ豊橋技術科学大学のキャンパスに集いました。今回は全講義がウェブ上で行われるという異例の事態となりました。実際に農業を営んでいる方、農業資材のメーカーや販売店、異業種から「農業」に対してアプローチをかける方、様々な方が参加されました。私は農業資材のメーカーとして、これからの農業の新しいあり方を模索し、持続可能な生産を少しでもお手伝いできないかという思いで参加させていただきました。皆様、バックグラウンドは様々ですが、学びに意欲的な仲間を得

て、大変心強く感じました。

このような仲間と共に、農業の6次産業化を体系的に学ぶことで、農業経営における6次産業化の全体像と必要な基本知識を少なからず把握することができました。まずは柔軟な発想方法を取得する学習や、6次産業化推進講座に学ぶ自らの基本姿勢を確認することから始まりました。その後、農業経営に関する基本理念やマーケティング等の基本概念、食品加工や品質管理の基本知識、金融や行政等の農業支援の内容、ビジネスプランの作成と発表などの教室講座を受講して参りました。また、ウェブ上での視察となりましたが、生産者が6次産業化を推進し成功している先進事例の視察をさせていただきました。eラーニングにおいても、農業者における6次産業化実践論や新価値創造を目指した商品開発と経営手法、財務会計等の基本知識を学ぶことが出来ました。

私も受講生は、集中的に進行するこれらの研修メニューを、ひたすら、追いかけるような思いを持って受講してきましたが、受講期間が、実質、僅か3カ月余りの短期間に、内容としては、かなりのボリュームであり、本来、もう少しじっくりと深掘りした学習をすべき事柄ではないかと思える密度の濃さでありました。願わくは、受講生それぞれの持続可能な農業創出という思いと、各々取り

組む事業が多様であることから、今後、受講生同士のビジネスにおいて連携できる可能性が出てくるのではと感じております。

私も受講生は、日々の会社業務や家業がある中、それらと両立しながらの受講や、eラーニングを含めたすべての講座や視察についての課題提出は大変でございましたが、そのような中で得られたものは大変大きいと感じております。これもひとえに、同期の仲間の励ましや、指導教員である山内先生、水鳥様、先端農業・バイオリサーチセンターの皆さまのご支援があればこそその賜物であり、ここに改めてお礼を申し上げます。また、このプログラムをご支援いただいている関係者の皆さまにも、このような機会を与えてくださったことに感謝を申し上げます。これから、一緒に学んだ同期の仲間やIT農業ネットワークの仲間、諸先輩方との親交を深め、必要に応じ連携しながら、学んだことを活かして、力強く愉しく人生を高め、地域や農業の発展に貢献して参りたいと存じます。

最後になりましたが、修了生を代表して、改めて私たちのご支援くださいました主催をはじめ関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。皆さまのご健康と豊橋技術科学大学の更なる発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和3年1月29日

東海地域の6次産業化推進人材育成第9期生代表 大岡祐馬